



第 72 回 小津安二郎の言葉

小津安二郎は日本映画を代表する監督の一人で、サイレント映画時代から第二次大戦後まで活躍したことは広く知られています。また小津の残した言葉も多く紹介されていますが、その中で代表的なものは「何でもないことは流行に従い、重大なことは道徳に従う。芸術のことは自分に従う。」でしょう。これは映画関係の雑誌「キネマ旬報」1958年8月下旬号 pp. 44-49 の記事に掲載された言葉とのこと。その後、しばしば引用されており、たとえば中村明著、「小津映画 粋な日本語」（ちくま文庫、筑摩書房、2017年2月）の第一章冒頭にも掲載されています。

この言葉中、最後の「芸術」を「研究」に置き換えても意味が通じます。すなわち「研究のことは自分に従う。」です。研究は流行を追ったり、外国が先導しているテーマを追従するのではなく、独創的なテーマを見つけてそれを深掘りする知的活動ですから、自分自身の考えに従って進める必要があります。



小津の生地、東京都江東区深川の古石場親水公園に架かる小津の名を冠した「小津橋」。